

排出されたごみの行方

2008年度11月祭で排出されたごみは前ページのように分別回収されたあと、それぞれリサイクル業者などに引き渡され処理されました。大きく分けると11月祭期間中にホームケルン株式会社に運搬されたものと、11月祭終了後に当委員会で事後処理を行い運搬されたものに分けられます。ここではそれぞれのごみがどのように処理されたかについて紹介します。



ホームケルン株式会社回収のもの

ホームケルン株式会社は京都府の廃棄物処理業者です。10年以上にわたり11月祭のごみ処理をしていただいています。回収したごみは期間中に京田辺市のリサイクルセンターなどへ運搬され処理されました。以下が各ごみの処理方法、結果です。

紙ごみ・ビニール・その他

京都市クリーンセンター（京都市伏見区）へ運搬され一般廃棄物として焼却処分されました。

缶・びん

缶は鉄原料及びアルミ原料に、びんは破碎後ガラスカレット材になりました。

ペットボトル

破碎・再成型されプラスチック製品になりました。（写真1）

生ごみ

京都有機質資源に運搬され飼料にされました。

段ボール

段ボールとして再生処理されました。（写真2）

故紙

圧縮処理などを経て製紙会社へ引き渡され、再生紙となりました。

（写真1）リサイクルセンターでのペットボトル処理過程の様子



（写真2）同じく段ボール処理過程の様子



その他業者等処理のもの

ホームケルン株式会社以外の業者などに処理をお願いしているごみ各々の処理は以下のようになっています。発泡スチロールトレイ、汚れのないビニール・プラスチック類、割り箸・竹串の運搬にあたっては運送会社に委託しました。

発泡スチロールトレイ

模擬店によって洗浄されたトレイは、11月祭終了後箱詰めをしてトレイ製造業者の株式会社ヨコタ京都の工場（京都府舞鶴市）へ運搬され、トレイの原料となりました。

汚れのないビニール・プラスチック類

発泡スチロールトレイと同じく、株式会社ヨコタ京都に運搬され、トレイの原料となりました。

割り箸・竹串

当委員会が選別作業（写真3）をした後、比較的きれいなものは王子製紙株式会社の工場（愛知県春日井市）へ運搬され再生紙原料に、それ以外のは市民団体の京都竹炭クラブ（京都府亀岡市）へ運搬され、炭とされました（写真4）。

廃食用油（使用済てんぷら油）

株式会社レポインターナショナルによって回収、リサイクルされ精製されてバイオディーゼル燃料になりました。

牛乳パック

京大生活協同組合に処理を委託し、再生紙にされました。

ペットボトルキャップ

箱詰めしたあとプラスチックリサイクル業者の松本商会株式会社に運搬され、粉碎後、再生ペレットとしてリサイクルされました。

（写真3）割り箸・竹串の選別の様子



（写真4）炭化後、竹かご等につめて部屋のアクセサリ、あるいはパックして消臭・除湿剤として利用されています。（写真提供：京都竹炭クラブ）

